

鈴木亜弥子選手に

「賛辞の楯」を贈呈

昨年11月に韓国で開催されたパ
ラバドミントン世界選手権大会に
おいて優勝した、仙台市在住の鈴
木亜弥子選手の功績をたたえ、12
月27日に「賛辞の楯」を贈呈しま
した。賛辞の楯は、芸術、文化、
スポーツなどの分野で優れた功績
を残した市にゆかりのある個人や
団体に贈るものです。

郡市長は「懸命にシャトルを追
い続ける姿に、多くの方々が勇気
と元気をもらい、感動しました。
東京パラリンピックでも金メダル



▲「優勝の実感が湧いてきました」と語る
鈴木選手（中央）

を獲得されることを心より期待し
ています」と活躍をたたえました。
また、斎藤市議会議長から制度
創設後初めてとなる「仙台市議
議長特別表彰」が行われました。

市政トピックス

杜の都景観重要建造物等に指定しました

市では、まちの景観として親し
まれている歴史的・文化的建造物
等を保全し、魅力ある景観づくり
に活用するため、景観形成に重要
な役割を果たしている建築物や工
作物・樹木を、所有者の同意を得
て、杜の都景観重要建造物等に指
定しています。

昨年12月20日に新たに「旧針
旅館」と「佐大商店登り窯」が指
定されました。「旧針惣旅館」は、
土井晩翠や市川房枝など多くの文
人・墨客が滞在した旅館で、江戸
時代からの樹木も残っています。
「佐大商店登り窯」は、現在は使
われていませんが、堤焼のまち・
堤町に唯一残っている登り窯です。
震災で大きな被害を受けましたが、
ボランティアにより元のれんがを



▲旧針惣旅館
(若林区南材木町)



▶佐大商店登り
窯(青葉区堤町)

できる限り使って復元されました。
今後は、地域資源として紹介す
るほか、保全・活用を図っていき
ます。

市政トピックス

二十歳の門出を祝福 —成人式開催—

1月7日、カメイアリーナ仙台
で成人式が行われ、新成人たちが
新たな門出を迎えました。

今年二十歳を迎えた新成人は平
成9年4月2日から平成10年4月
1日に生まれた1万989人です。
第1部の式典で郡市長は「自ら
の責任の下に幅広い選択ができる
ことを大きなチャンスと捉え、新
たな関係を数多く築いてくださ
い」とメッセージを贈りました。
また、新成人を代表して、北村由
衣さんと西條淳平さんが「大人と
しての自覚と責任を胸に刻み、こ



▲誓いの言葉を述べる新成人代表

市政トピックス

地域の防災に貢献 防災ボランティア表彰を実施

長年にわたり地域の防災・減災
に尽力された団体等を表彰する防
災ボランティア表彰式が、1月15
日に行われました。

受賞した5団体は次のとおりで
す（順不同）。
「落合東町内会」「高砂地区町内会
連合会」「藤田町内会」「荒町小学
校区避難所運営委員会」「エフエ
ムたいはく株式会社」

安全・安心への決意 新たに「消防出初式 を開催

1月6日、勾当台公園市民広場
と市役所本庁舎前で、新春恒例の
消防出初式が行われました。式に
は、約1100人が参加。消防音
楽隊とカラーガード隊の演奏・ド
リル演技や市内七つの消防団によ
る「仙台消防階子乗り」などが行
われました。

「仙台消防階子乗り」は、約60
種類に及ぶ豊富な技など仙台独自
の特徴を兼ね備えたはしご乗りと
して昨年11月に市指定無形民俗文
化財に指定されました。高さ7・
2メートルのはしごの上で勇壮な
演技が次々に披露され、観客から
大きな歓声が上がっていました。
また、特別機動救助隊等による
救助訓練や消防車等による一斉放



▲消防団員が心を一につに、安全への
心意気を伝える階子乗り

仙台市役所本庁舎建 替基本構想検討委員 会を開催しました

老朽化が進む本庁舎の建て替え
に向けた基本構想を検討するため
仙台市役所本庁舎建替基本構想検
討委員会を設置しました。

昨年12月21日に開催した初会合
では、新庁舎のコンセプトや立地
などについて委員の皆さまからさ
まざまなご意見をいただきました。
今後、新庁舎の機能や建て替え
の手法などの検討を進め、5月に
中間案を取りまとめ、8月に基本
構想を策定する予定です。

3.11 震災文庫を 読む

東日本大震災を語り継ぐため市民図書館に設けた
「3・11震災文庫」。所蔵する約1万冊から、より
すぐりの本をご紹介します。

土地が語りかけてくる言葉に耳を傾ける
海辺の図書館 庄子 隆弘

「あの日」に続く時間2011・3・11



太宰幸子 / 著
河北新報出版センター刊



高橋親夫 / 著
冬青社刊

「まさか、津波が来るとは思
つていなかった」。震災後、何
度この言葉を聞いたことか…。
しかし、地域の神社や石碑に過
去の大災害の記録を見つけれ
るとはそう難しくありません。同
じように、過去からのメッセー
ジを伝えるのが地名です。
著者は震災後の沿岸部を歩き、
被災を目の当たりにしながら、
地名の由来を紐解き、時にはか
つての大災害と重ね合わせます。
例えば、念仏田という宮城野区
岡田の地名は、1611年の慶
長大津波の際、浸水した水がな
かなか引かなかつたので、住民
がそこで念仏を唱えたのが由来
とされます。こうした災害だけ
でなく、過去の豊かな生活や文
化も地名が継承していることが
分かる1冊です。

3・11というタイトルから想
像される被災記録の写真集では
ありません。鮮やかな色のタイ
ルに囲まれた風呂場や便所、何
もない空間にぼっかりと空いた
井戸、1ページ1ページに普段
であれば見ることのできない、
むき出しになった生活空間の痕
跡が写し出されています。
震災が、津波がなければ、継
続したであろう人々の豊かな暮
らしをそこに想像し、記録・記
憶を後世に残すことは、決して
悲惨さや恐怖を伝えるだけでは
ないことを、これらの写真が教
えてくれます。
後半、開発・整備されつつあ
る無機質な景色の中、小さく芽
吹く植物たちは、あの日」か
ら未来へと続く希望のように感
じられます。

※紹介した本は、市民図書館でご覧いただけます 問市民図書館 ☎261・15885